

市議会アドベンチャー

江田島市の政治に関心を持つ 江田島市議会の仕組みや役割を学ぼう



各校の意見発表内容

切串小学校

本市のこどもの人口が減っていることについて、市としての考えを教えてください。

江田島小学校

本市の魅力を増やすために3点提案する。

- ①本市PRイベントを開催すること。
- ②空き家を宿泊施設にすること。
- ③イベントを開催したり公園やプールなどで運動をしたりして、健康に過ごすことのできる施設を造ること。

三高小学校

本市の魅力を発信したいと思っている人たちがつながらる機会をつくり、総合PRイベントを企画することを提案する。



大古小学校

本市をもっといい島にし、「人口減少」や「空き家が多い」という課題点を解決していくために3点提案する。

- ①市内に道の駅を造ること。
- ②早瀬大橋を塗り直すこと、ライトアップすること。
- ③街灯を増やすこと。

中町小学校

本市の魅力伝えるランドマークを造ることを提案する。
本市の魅力を多くの人に伝える取り組みがあれば教えてください。

鹿川小学校

本市の人口減少を止める手立てを2点提案する。
①空き家を人が集まる場所として活用できないか。
②本市の魅力伝えるCMや3分程度の広報番組を作れないか。

市内の小学6年生（開催当時）が、社会科授業の一環として市議会の仕組みや役割について学びました。令和5年度は、7月に議会棟の施設見学を行い、1月に議場で議会クイズを行ったのち、各校でより良い暮らしのために調べたことを市に提案・質問する意見発表を行いました。

次のページに市議会アドベンチャーを終えた児童の感想文を掲載しています。



上本 雄一郎

「里海教育」の推進により個性ある島人の育成を！

答 さらに充実、発展させていくことで、島の豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぐ基盤づくりに努める



問 島に戻って改めて感じるのは、この島の豊かな自然環境であり、島の人たちの温かさである。この点は、新総合計画の基本構想をまとめる過程でも、島の強み、よいところとして多くの声が上がっており、今後も大切にすべきものとの指摘がなされたところである。ところで、本市の人口減少の動向を踏まえた場合、限られた資源を今後どこに振り向けるべきか。今日のわが国を取り巻く歴史的・社会的情勢を踏まえた場合、この島の強みとは何か。こうした点に思いを巡らせる際、「里海教育」のさらなる推進にこそ、課題に満ちた時代と社会を切り拓く端緒があるのではないかと考えるがどうか。

市長 「里海教育」は、これまで20年以上にわたり、教育委員会所管の「さとうみ科学館」を中心に展開してきた、地域の自然「里海」を教育資源とした、本市ならではの特色ある教育です。自然に親しみ、知的好奇心や探究心を育むとともに、自然環境への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを持ち、豊かな心を育むことを目指して、市内全小学校



令和5年度さとうみサイエンスキャンプの様子

の5年生を対象とした「マリン・アドベンチャー」を実施しています。また、休日には自然観察会等も開催し、学校教育・社会教育の両面から、市内外、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、直接体験を重視した学習の場や機会を提供してきました。さとうみ科学館の西原館長が日頃、口にしている言葉、「ふるさとの自然を知ること、ふるさとを語ることも、ふるさとを語る大人になる」というフレーズがあります。この言葉は私の心に強く響きます。こどもたちがふるさとの自然について学び、その豊かさや大切さを実感すること、本市の未来を担う大人へと成長することを願っています。

今後は、さらに「里海教育」を充実、発展させていくことで、美しい自然や地域資源等の島の豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぐ基盤づくりに努めます。

調査研究レポート

調査日・調査先

1/24 呉市議会広報委員会

調査概要

議会広報特別委員会では、今後の活動展開の参考にするため、中核市議会議長会の議会報コンクールで最優秀賞を2度受賞した呉市議会の広報紙「チーム議会くれ」の制作過程や、その編集を担う広報委員会の運営状況について調査を行いました。



最優秀賞を受賞した「チーム議会くれ」第22号

報告内容

①「伝えたいこと≠知りたいこと」、②「伝えるのではなく、伝える広報紙作り」、③「若年世代にも手に取ってもらえる紙面作り」といった説明が委員一同、深く心に刻まれました。また、年4回分の「特集テーマ」を広報委員会であらかじめ選定して取材や執筆をしていること、費用対効果を意識し、また配布を依頼している自治会の負担を少しでも軽減するため紙質と紙の厚みを変更したことなど、新たな視点が得られました。広報委員会の役割とそれを支える議会事務局と印刷会社との役割分担の状況についても理解が深まり、今後、より効率的な委員会運営を考える上で、非常に参考となる実りある調査となりました。

「より親しまれ、より手に取ってもらえる広報紙」を目指して、今後さらに意欲的に取り組んでいきます！



活発な質疑がなされた